



四日市の工業団地に建ち地域への貢献度も高い伊藤製作所



モノづくりの力と絆を 継承して次なる進化へ

伊藤製作所社長 伊藤 竜平

—— 順送り金型の設計製作、自社製金型を使ったプレス部品加工という2本柱で高い技術力と収益力を誇る伊藤製作所の社長に12月6日付で就任されました。祖父・伊藤正一氏が1945年に漁網機械の会社として起業し、父・澄夫氏が60年代半ばから転換、大きく発展させたものを、3代目として継がれた抱負を。

伊藤 プレSSHャーがないとい

えばうそになります。父が築いてきた盤石な体制に加え、私より下の世代がかなり育ってきてお

り、スムーズなスタートが切れたのではないかと思います。ただ、そうはいってもここ数年、本当に不確実な世の中です。世界の潮流等を素早くキャッチして、変化に対応していくしかありません。父が作ってくれた情報網、人脈には相続税も贈与税もかかりませんから、それらを受け継ぎ、生かしていくことで、今後につなげていきたいです。

—— 入社はいつですか。

伊藤 大学を出てすぐです。ちょうど就職氷河期で、加えて団塊

ジュニア世代ですから、就活状況は本当に酷く、同級生で新卒の時点でちゃんと就職できたのは半分くらい。そういう時代であったことと、「金型の勉強をするのなら、うちで鍛えてもらうのが一番」という父の考えもありました。

また、私が小さかったころは町工場の規模でしたし、安全面の管理なども当時は緩く、祖父が孫を連れて、父が子を連れて、工場内をブラブラできた時代です。油のおいとか、旋盤を削った時の音とか、そういうのに触れながら育

ちましたので、「いずれ自分もこの仕事をやるんだろうな」と漠然とは思っていました。それでも高校生、大学生になると、ほかのこともしてみたいという欲が出てきたこともありましたが。

—— 大学生当時の金型業界の状況は。

伊藤 既に空洞化がかなり進んでいましたが、「うちは独自の技術があるぞ」と父から聞いており、業界ではそこそこのレベルの会社になっていましたので、私自身をこの会社の中で鍛えてもらい、技

術を磨いていけば、会社も私も一緒に成長していけるのではないかなと思えました。

—— 入社後は。

伊藤 プレス加工の現場で3年半鍛えてもらった後、フィリピン

の合併会社が移転とともに100%子会社に切り替わる時期になったことから、しばらく同国に行き、立ち上げが終わって帰国してからは金型設計に18年携わり、取締役

になってからは技術部と品質管理部を見てきました。

当社が得意とする複雑かつ高精度な金型については設計が重要

で、その教育については長年積み上げてきたノウハウがあり、100%社内で教育ができています。ただし図面を書くだけでは商売にはなりません。図面通りの金型を作れる職人が不可欠ですし、プレス加工での量産では、毎日機械を回して品質を安定させて作る人たちがいてこそです。

—— そうした御社の財産である技術や教育ノウハウが漏洩するリスクの管理も必要ですね。

伊藤 漏らしたくない高度な技術が詰まった金型は、それ自体の販売はしていません。当社内でその金型を使って安価に部品を量産して販売。出来上がった部品は世の中に出ていきますが、それを作るために必要な金型は、絶対に外に出さないようにしています。

当社の事業は金型製作と部品量産の2本柱ですが、売り上げでいうと金型販売の方は多い月で5%くらい。金型事業単体では利益を出すことは難しいんです。ですが、何十年とノウハウを積み上げてきた金型事業があつてこそそのプレス部品加工事業です。金型事業を社内に残していけないと、部品量産



自社製作の順送り金型を用いて、プレス加工のみで、複雑かつ精緻な部品を、安価に量産できる技術と設備を持つのが、伊藤製作所の強みだ

の方のレベルが下がっていったらまずでしょう。

—— 先代社長は手品など多彩な趣味を持つキャラクターと人柄で、日本の社員だけでなく、フィリピン、インドネシアの関連会社社員にも「おやじ」と慕われてきました。その後を継がれることについては。

伊藤 親子とはいえない違う人間ですから真似しようと思ってもできないことはあります。それでも「社員を大切に」という考え方はしっかり引き継ぎ、私なりのやり方で社員の幸福度を高めていきたい。それには福利厚生、給与、休暇の

充実です。

時代の流れとして社員の働く時間は減っています。けれど、アウトプットは従来と同じか、それ以上にしないと、じり貧です。それをデジタル技術で解決しようとして、現場も事務も今いろいろやっているとありますが、2秒になったという事例も出てきており、そういうレベルの改善がデジタル化によって起きます。まだDXとまではいっていませんが、今後も意欲的に取り組み、改善を続けていきます。

—— 日本のモノづくりの土台の一つである御社の今後に期待します。ありがとうございます。

株式会社伊藤製作所
本社：三重県四日市市広永町 101
TEL：059-364-7111
FAX：059-364-6410
URL：https://www.itoseisakusho.co.jp/
創立：1945年12月
資本金：5,000万円
事業内容：順送り金型設計製作、プレス部品加工、部品組み立て
国内関連会社：株式会社イトン
海外関連会社：ITO-SEISAKUSHO PHILIPPINES CORPORATION、PT.ITO-SEISAKUSHO ARMADA